

## 憧れて生物部へ

高木俊彦（第9回卒業生）（2016.12.07）

私は丸亀市で生まれ、市内の城北小学校を卒業しました。ちなみに、「カエルの会」の原田会員は同小学校の先輩でもあります。同小学校には当時、馬場先生という植物好きの先生がいて、私を大川山や腕山の登山に誘ってくれました。そのうち、馬場先生の繋がりで大手前の生物部と行動を共にする機会があり、そこで初めて和氣先生の存在を知りました。その後、私は、言わば和氣先生や大手前生物部に憧れる形で、大手前に入学することとなりました。

入学後は早速生物部に入り、なぜか、先輩部員などから「坊や」と呼ばれるようになり、生物部の新入りメンバーとして日々馴染んでいきました。その頃の部長さんが、この「カエルの会」の会員である香川弘昭(6回生)先輩であります。その後、香川県内の生物の分布状況を調査する大掛かりなプロジェクトに関して(と思うのですが?)、和氣先生を中心に、高松高校の井上勉先生や丸亀高校の豊島先生らと連携し、県内各地の山野を調査するようなことがあり、私の手元にも、井上勉先生や高松高校生物部の皆さんと一緒に撮ったスナップ写真が残っております。

また、生物部在部中には、和氣先生や香川先輩がそうしたように、私も自宅の裏庭にエビネやクマガエソウ、シコクカッソウなどの山野草を植えて季節の折々に花を咲かせたことや、我拝師山で(ミズ)トキソウを、徳島の落合峠でクルマユリを発見したことなどから、地元の新聞に掲載されたこともありました。



そして、何より忘れられないのは、私が高校生するとき、生物部の一年下の山神氏と二人で徳島県の矢筈山に登山し遭難したときのことです。霧と雨のため、山頂付近で道に迷った私たちは、尾根近くの窪地に縦の木の枝で急拵えの小屋をつくり、3日間ほど雨を凌いで救助を待ったのですが、雨の中で最初に聞こえた救助隊の声が和氣先生の声でした。「おーい。おーい」という声に「ここにいるよ～」と応え、私たち2人は助かり、和氣先生たちにより麓に下され、生還することができました。和氣先生は、生物部の恩師であるとともに、私にとって命の恩人でもあったのです。

その後、私は、植物などを対象とする分野ではなく、人と人が織りなす現実社会を対象とする社会学の

分野を専攻し、職業も又、その専攻を活かして、非行や犯罪行動、社会病理を対象とする仕事に就き、法務省で長く勤めることとなりました。法務省では、何度か地方勤務の経験があり、四国でも松山と高松で計3年間勤務し、郷里の人々と旧交を温めることができました。長く勤めたことだけが取り柄の自分でしたが、なぜか古希の年には瑞寶中綬章の叙勲の機会を得ることができました。

退職後は、ご縁があって、大学院時代に志望していた大学教員の仕事に就くことができ、現在、犯罪心理学や社会病理学などの科目を担当し、日々を過ごしております。

「カエルの会」の皆さんは、私にとって大先輩の方々ばかりで、近寄りがたい気もいたしますが、和気先生が結ぶご縁と甘えさせていただき当会に参加させていただいております。今後とも何卒よろしく願いいたします。